

28歳が心配するなんて…



認知症の中でも一番多いのは、アルツハイマー型認知症だ。が、遺伝は極めて稀である。

というのに、28歳のD子さん。「センセ。わたし認知症？ おばあちゃんがそうだった。遺伝？」と深刻な相談だ。聞くと、仕事仲間から、「聞いたことをすぐ忘れる。いつも、ボーンとしている」と指摘されて悩んでいる。もちろん、検査をしても異常はない。となれば、「いわゆる若年性健忘症？」と聞いていたら、「セ

認知症の遺伝子検査

ンセ。認知症の遺伝子検査できるのでしょう」ときた。断片的知識は豊富だ。

確かに、遺伝子検査サービスというのも流行りである。それで、認知症も予測できると宣伝するところもある。ところで、D子さんのおばあちゃんの認知症は、70歳を過ぎて発病したもので、遺伝性のない「孤発性アルツハイマー病」である。だが、孤発性でも遺伝子検査をすると、アポリポタンパクE4（アポE4）と

いう遺伝子が多いということが分かっている。それで、遺伝子検査サービスでは、このアポE4を検出して、アルツハイマー病の危険性を知らうというのだ。

が、ご注意。このアポE4は、アルツハイマー病の遺伝子そのものではない。いくつもあるアルツハイマー病の「危険因子」の一つにすぎない。他の危険因子や環境因子などと

危険因子より生活習慣を

相まって認知症になるかどうか決まる。事実、アポE4が多くても認知症にならないひとみれば、逆にアルツハイマー病でもアポE4遺伝子の少ないひとみるのである。

さて、ここで、認知症の危険因子で、アポE4よりも強烈なものを出してほしい。加齢である。というのに、若いひとが認知症を心配するなんて…。それよりも、まずは、自分の身の回りに脳に悪い生活習慣がないかチェックしてほしいものだ。いっぱいあるかも。

（石黒修三||いしぐろクリニック・脳神経外科専門医、金沢市在住）